



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2025年9月7日

No. 136

イエス・キリストは、きのうも今日も、
また永遠に変わることのない方です。

ヘブライ人への手紙 13章8節 ・ 新共同訳



わたしの隣人に対して、一人のキリストになろう

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

ローマの信徒への手紙 12章15節

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL: <https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



さて、イエスの教えに目を戻しますと、第一に「婚宴に招待されたら」と始まっていることに気づかされます。聖書において「婚宴」とは、神の国における食卓を意味します。その視点で今日の教えに耳を傾けますと、神の国に招待されるとはどういうことか、考えさせられることになります。つまり人の視線では、うまく世の中を渡る方法と映るのです。ファリサイ派の人々は律法という神から与えられた戒めを守ることによって獲得できるとし、自分たちこそ理由を十分手にしていると考えていました。一方イエスの視線によると、それは神の国のあり方にほかならないのです。ですから、今日主イエスが教えようとされていることは、最終的に上席を獲得するための方法ではなく、うわべだけの遠慮でもなく、そこに招かれるのにふさわしい理由を何一つ持たない自分を知るようにという招きなのです。なぜなら神の国に招かれる理由は、私たち人間が律法を完全に守ることによるのでもなく、私たちの正しさによるのでもないからです。私たちが神の国に招かれるのは、私たち人間にではなく、ただ神にのみ理由があるということを今日主イエスは教えておられるのです。「招待を受けたら、むしろ末席に行って座りなさい。」とは、そのことを指しているのです。

第二に今日のたとえでイエスは次のように教えられました。「同席の人みんなの前で面目を施すことになる」と。「面目を施す」とは、一般的な日本語辞書では「評価を高める」「体面を保つ」という意味になります。人間のことに言及しているとわかります。ところが今日「面目を施す」と訳されているギリシャ語「ドクサ」は、辞書によりますとその意味は

「名誉、栄誉、称賛、栄光、尊厳、威光」と並んでいます。日本語では「面目を施す」とは「評価を高める」「体面を保つ」という意味になりましたが、「面目を施す」と訳されているギリシャ語は直訳すると「人々の前で名誉、称賛、尊厳があらわれる」という意味になるのです。少し印象が違っているように思われます。そこでギリシャ語の辞書をさらに引いていますと、このギリシャ語の説明として「神の属すること」「キリストに属すること」と書かれていました。人の視線で「面目を施す」を理解すると、それはまったく本人のことを指すわけですが、原文に用いられている言葉にある意味は、決して人間自身のことを指すのではないということです。それは自分の「面目」ではなく、神とキリストに属すること、すなわち神とキリストの栄誉が人々の前に現わされるというのが、本来の意味にほかならないのです。

イエスの視線によるならば「面目を施す」という人間的な意味合いではなく、それが「神に属する栄光」というまったくちがった意味合いを示していることを知らされます。

神の国に入るのにふさわしくないはずの私たちが、神の恵みのうちに招かれています。そして、その私たちを上席に招かれるのも主ご自身にほかなりません。決してふさわしい者となりえない私たち、そして神の国に招き入れられる理由を何一つ獲得できない私たちを憐れみと恵みのうちにそこに招き入れ、最もよい席を用意するために、キリストご自身が十字架の死を遂げられたのです。これがこのたとえに示されていることなのです。この驚きこそが神の面目を施す、すなわち神に栄光を帰することなのです。(聖霊降臨後 12)

7月26日の信徒礼拝での証言です。

この場を与えてくださった神様に感謝いたします。

証しは2回お話しさせていただきましたので、以前お話しした出来事後の気持ちと、今の思いをお話しさせていただきたいと思い、ここに立たせていただきました。

二人の子どもを亡くし、親の責任と言われ、罪の意識からどん底の状態に落ち入り、苦しんだ時、なぜ立ち直れたのか？ それは神様が共に重荷を背負ってくださったと感じたからだと思います。ずっと肩が軽くなった様な気がしました。「それはいつなの？」「どうしてわかったの？」と聞かれた事があります。私には答えられませんでした。自分でもいつなのか、どうしてなのか、わからないからです。気がついたら、神様が共にいてくださっている事を肌身に感じられたのです。言葉では表すことができない、心に感じた思いです。

神様は、私たちに耐えられない試練は与えないとおっしゃいましたが、それは耐えられないのではなく、耐えられなくなる前に、神様が共に背負ってくださるということだと思います。そして耐えた分だけ強くなり、感謝の心が湧き出る。それを感じると、その後は何が起こっても耐えられる。その事を教えられた気がします。

心が軽くなり、落ち着きが戻った時、私のそばにいる二人の子ども、主人、両親、友、まわりの人たちが私を支えてくださっていることに気づき、素直に感謝する心にあふれました。教会に行き礼拝に出席することができるようになりました。大きな喜びでした。けれども、それ以上の大きな喜びが与えられたのです。主人が受洗しました。父から「○司

くんが洗礼を受けたいと言って来たよ。○子には何も相談していないんだってね」と言われ、私は声も出ませんでした。

共に悲しみ、共に苦しんでいた主人のことを忘れていました。その主人を、神様は助け救ってくださったのです。主人だけではありません。「こんな悲しい葬儀をした事がない」と苦しそうにしていた父。そして自分の思いに閉じこもっていた私をも、神様は救ってくださいました。

主人が言ったのです。

『『汚れなきいたずら』という映画をテレビで見て、幼い子どもが天使に抱かれて天国に行く姿に、自分も子どもたちのいる天国に行きたいと思い、牧師である父の許に行き、洗礼を受けたいと申し出た』と。それを聞いて神様の大きな力に喜びと感謝をささげるだけでした。神様が共にいてくださり、守り、導いてくださる。本当に感謝でした。

その頃、つくし野に住んでいました。50年程前の事ですから、まだ新玉川線も開通してなく、乗り換えして新大久保にある東京教会に通っていました。小学生なかばの我が子2人が、2人だけで行きたいというので、最初は私が離れて一緒に行く。もちろん何があっても声をかけない、ということで行かせる事にしました。間違いながらも、2人で助け合い、無事東京教会に着きました。冒険できた2人は、それからずっと2人だけで教会学校に通いました。その頃、東京教会の牧師は父でしたから、おじいちゃんの教会へ行くという喜びもあったと思います。

教会学校のキャンプなどの行事があるときは、私たち夫婦もお手伝いさせていただきま(次ページに続く)

した。2泊3日のキャンプでは、たくさんの子どもたちのお世話をするのは大変でしたが、とても楽しく充実した日々でした。私たち夫婦が立ち直るために、与えられたこの恵みに心から感謝しました。この恵みに応えるために、笑顔でいよう!!何があっても笑顔で生きて行こうと強く思いました。
(次月号に続く)

●聖書月間 2025 (後編) ○木○子

物語の続きは、魚の中で祈り続けてヨナは吐き出され、ニネベに赴き、自分を遥かに超えた力で、ニネベの王をはじめ、全員を悔い改めさせた、と言う結論になります。

ヨナの人間的な弱さ、神への怒り、そして民族的な思いへの囚われ・・・

ヨナは全てを超越する神の普遍的な愛と憐れみを理解する事が出来なかったのです。

しかし神はヨナを裁かなかった。

ここにも改めて、神の許し、愛、そして慈しみが見事に描かれていて、旧約聖書の世界がとても身近に感じられたお話でした。

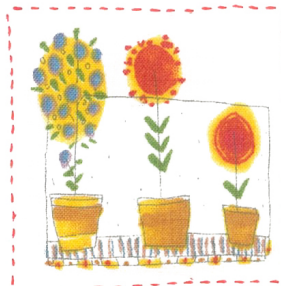
旧約聖書の世界を、勝手な要望に応じて、わかりやすくご解説くださった清重先生に改めて感謝いたします。

●CS だより ○野智○子

8月30日(土)、「夏のお楽しみ会」を開きました。集合時間にはすでに全員集合。佐藤先生に開会のお祈りをしていただき、心を合わせたあとは、早速ホットケーキ作りスタート。思い思いの形に焼いて一緒にいただきました。昼食のあとはスーパーヒーロー家族の悩みと活躍ぶりを描いたアニメ映画を、ポップコーンを食べながら楽しみました。参加者

今月、 受洗記念日を迎えた方

4日 ○田和○姉 5日 ○本
○太郎兄 9日 ○井○之丞
兄、○林○紗姉 30日 ○永○
沙姉、○永○兄、○永○兄



おめでとう
ございます。

わたしの隣人に対して、一人のキリストになろう

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」

ローマの信徒への手紙12章15節

●藤が丘教会の情報は、右のQRコードから



は13人。お祈りとお助けを教会の皆さまから頂いたおかげで、誰にもケガもやけどもなく、暑い夏の、思い出の一コマになりました。ありがとうございました。



📱スマートフォン
で、こちらのQRコード
を読み込むと、教会
のさまざまな情報を、
確認出来ます。